

# 学生新聞

放送大学  
埼玉学習センター  
埼玉CSC交流会  
学生新聞  
編集委員会  
〒330-0853  
さいたま市大宮区  
錦町682-2  
TEL.048-650-2611

## 埼玉学習センターで『日本残像』展示 「ちりめん本」と「古写真」 で見る日本の歴史 幕末・明治の風景・風俗・人物の記録

新しい年が明けた1月7日(土)～8日(日)、埼玉学習センターで「日本残像」の展示会が催された。

「日本残像」は放送大学図書館が所蔵する「ちりめん本」と「古写真」の貴重な資料を、全国の学習センターなどを巡回しながら展示している催しである。

「ちりめん本」は明治時代に長谷川武次郎が考



案した非常に珍しい絵本である。和紙に木版多色刷りの挿絵と英語などの外国語を活版印刷した上で、独特の加工を施すことにより縮緬布のような細かなしわと手触りを持たせている。絵本の内容は日本の昔話が多く、和綴じをした「桃太郎」や「浦島」などの和装本は、外国人が土産として買い求めたり、輸出をしたりして、日本を紹介する貴重な資料として喜ばれた。ちりめん本は絵本の他、小泉八雲の物語や暦なども作られている。触ってみると、とても紙

とは思えないほど軟らかくて、しなやかな風合いであった。

また、「古写真」は江戸末期から明治にかけてベアトやステイルフリートなど、我が国に最初に本格的な写真技術をもたらした写真師が、近代化への道を歩み始めた日本の風景を数多く撮影し、記録した貴重なコレクションである。ベアトやステイルフリートは玉村康三郎や岡本六平などの日本人写真師にも技術を教え、東京、横浜、奈良、京都などの日本の風景や東海道などの街道や宿場の人々など生活風俗を伝える写真をたくさん残している。



8日には8階講堂で、放送大学の川島絹江客員教授による「『源氏物語』の花と女性たち」と題する公開講演会も催され、満席の聴衆が熱心に聴き入っていた。(冬木)

### 単位認定試験

1月20日から開始

1月20日(金)～29日(日)まで単位認定試験が行われます。試験日時等を確認し、試験時間に遅れないよう注意して下さい。

なお、1月27日(金)及び1月31日(火)は臨時閉所となります。

### 新年への期待

埼玉学習センター所長 渋谷治美

CSCに結集しておられるすべての学生、同窓生の皆さま、明けましておめでとうございます。本年も面接授業に、サロンに、公開講演会に、サークル活動に、フェスタにと、どうぞ積極的にご参加下さい。

紙面をお借りしまして今年の抱負、期待をいくつか申し上げます。

今年度は、皆様のご協力により、さまざまな取り組みが実現しました。特に、学生生活の充実を図るための取組が、多く行われました。また、国際交流の促進にも力を入れています。今後も、さらなる発展を遂げるべく、皆様のご協力をお願い申し上げます。

「ちりめん本」は明治時代に長谷川武次郎が考案した非常に珍しい絵本である。和紙に木版多色刷りの挿絵と英語などの外国語を活版印刷した上で、独特の加工を施すことにより縮緬布のような細かなしわと手触りを持たせている。絵本の内容は日本の昔話が多く、和綴じをした「桃太郎」や「浦島」などの和装本は、外国人が土産として買い求めたり、輸出をしたりして、日本を紹介する貴重な資料として喜ばれた。ちりめん本は絵本の他、小泉八雲の物語や暦なども作られている。触ってみると、とても紙

「奥の細道」にこめた芭蕉の思いを聞いて  
榊原敏子

人生観が示されています。陸奥の歌枕の跡を訪ねその心に残り、その中で時の移り行く様に思いを馳せています。この旅のあと不易流行、人生回顧、風雅論等の思想の高まりが見られます。芭蕉の全思想、生きた証がこの一冊に収められたものと考えられます。

魚住孝至放送大学教授は最初に、『奥の細道』について問題提起をされた。なぜ奥羽行脚だったのか。奥羽行脚の中で何を体験したか。なぜ『おくのほそ道』は書かれたか。籠められた思想は何か。後世への影響は何か。これらの問題点を芭蕉の年譜をパネルで辿りながらその時々の思考の変化、高まりを考察されました。

6年2月から7月の間だったと考えられています。平成8年12月「自筆本の奥の細道」が出現しました。夥しい訂正の貼紙があり、芭蕉は上質な紙に最初書き、その後、大学生であった私は、ゼミの学生8人で自筆本の素龍清書本、自筆本の3本を並べて一字づつ字比べをしました。地味な作業でしたが、芭蕉の推敲過程が分かり、感動した事を覚えていました。

最後の旅で故郷の兄に送るための素龍清書本は、楸形本で、題簽は芭蕉自ら記した「おくのほそ道」です。それは、古今集以来連綿と連なる日本の文学の伝統に繋がりたいと希求した芭蕉の思いが、形となったものと思われ謝を進呈いたします。

公開講演会(2月)  
放送大学・埼玉学習センター 8階講堂

日時 2月5日(日) 14時～16時  
演題 「正しく怖がる第4回 『宇宙防衛軍!』 -宇宙を正しく怖がる-」  
講師 大朝由美子(埼玉大学准教授)

科目登録の手続き  
2月13日から27日まで

2月13日(月)から平成29年度第1学期の科目登録申請が始まります。登録申請は①郵送、又は②システムWAKABA(インターネット)で行われます。

平成29年度第1学期 学生を募集

平成29年度4月入学生を募集しています。出願の受付は第1回が2月20日(火)、第2回が3月20日(月)までです。

オープン・キャンパスと学習相談を開催

左記の日程でオープン・キャンパスと学習相談を開催いたします。

日時 2月4日(土) 14時  
内容 ①大学概要説明、履修案内、卒業生の体験談、面接授業・図書室見学、個別相談

公開講演会(2月)  
放送大学・埼玉学習センター 8階講堂

日時 2月5日(日) 14時～16時  
演題 「正しく怖がる第4回 『宇宙防衛軍!』 -宇宙を正しく怖がる-」  
講師 大朝由美子(埼玉大学准教授)

平成29年新年のあいさつ  
埼玉CSC交流会 代表 嶋崎洋明

新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

平素は、埼玉CSC交流会の事務運営に格別のご支援と、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成29年度第1学期 学生を募集

平成29年度4月入学生を募集しています。出願の受付は第1回が2月20日(火)、第2回が3月20日(月)までです。

オープン・キャンパスと学習相談を開催

左記の日程でオープン・キャンパスと学習相談を開催いたします。

日時 2月4日(土) 14時  
内容 ①大学概要説明、履修案内、卒業生の体験談、面接授業・図書室見学、個別相談

公開講演会(2月)  
放送大学・埼玉学習センター 8階講堂

日時 2月5日(日) 14時～16時  
演題 「正しく怖がる第4回 『宇宙防衛軍!』 -宇宙を正しく怖がる-」  
講師 大朝由美子(埼玉大学准教授)

「とちぎ秋まつり」  
榊原誠二

昨年の11月13日(日)、私は巴波川を訪れた。以前から「とちぎ秋まつり」の大イベント「山車勢揃い」をぜひ見たいと思っていたのだ。

この秋祭りの山車勢揃いを見るため、今度秋に3度訪れたが、前回は生憎の雨で山車会館や御飯屋に避難した山車しか見ることができなかった。今年は幸いにも上気になり、しかも2年毎の山車巡行が行われるのだ。勇んで妻と2人で電車に乗り込んだ。栃木駅前や中央会場の山車を聞いた後、山車の勢揃いと巡行出発を待つことにした。

この「とちぎ秋まつり」は、江戸との舟運や日光街道の宿場町として栄えた「小江戸・栃木」に商人の心意気が伝統として育まれ、明治26年に栃木県最初の商業会議所開設認可を記念して、当時6台あまりの山車の巡行・競演が行われ、町をあげての秋祭りとなったのだ。絢爛豪華な山車が蔵の街並みを競い合っており、往時の栄えた栃木の町を今に彷彿させる光景である。

この祭りの一番の見所は「ぶつつけ」と言われる山車のお囃子の競演である。複数の山車が対局して、山車の引き手などが提灯や扇子を振りかざして相手方に掛け声をかけながら、鉦、太鼓、笛で懸命にお囃子を盛り上げる。その中でお囃子の調子が外れた山車は、相手方に巡行する道を譲らなければならない。そんな約束事に従うというしきたりが、このお祭りの雰囲気をおお層盛り上げていると私は思うのである。

投稿コーナー

茂木一衛先生



行われたことに意義があるのではないだろうか。西洋音楽の合唱の初めは教会で歌うために作られたものである。教会という狭い空間の中で高い天井越しに天まで響くような歌声は神秘的でさえある。

茂木先生はサロンの中で、「音楽的宇宙」という事を話されたが、まだ理解できていない。教会の中で宇宙に広がるような歌声も「音楽的宇宙」のような気がする。「音楽的宇宙」は来期の茂木先生の面接授業のテーマであるので、そこで詳しく学びたい。

後半は先生の指導でクリスマスに歌うような曲を2曲練習した。先生の話が面白かったこともあり、次回の参加を希望する人が多かった。次回はもっと多くの人に参加してもらいたい。楽しいですよ！

茂木サロン「音楽的宇宙」 湯本修己

今回のサロンは出席者が14名と、少し淋しかったが、その分、和やかな雰囲気の中で話が進められた。

前半は先生が指導している合唱団が、11年前、ウィーンで演奏した時のDVDを観た。ウィーンはモーツァルトやベートーベンなどが活躍した音楽の都であり、今も世界中のクラシック音楽ファンがこの地を訪れる。しかも、この公演は世界遺産であるシュテファン大聖堂で行われたものである。

DVDでは、今より少し若い茂木先生が少し緊張気味で指揮している姿が映っている。他方、歌っている合唱団は日本から参加した団員と、現地ウィーンの団員からなる混成合唱団である。日本から参加した団員は、緊張しながらも、一生懸命に歌っていたのが印象的である。この様に、大聖堂で堂々と歌えるということは、日本でかなりハードな練習を積み重ねてきたのであろうと思われる。

また、今回の公演が劇場でなく教会で

金属や紙などの円板を使い磁石で釘を多く持ち上げる実験中



子ともたちと楽しむ 寺子屋式の理科教室 関谷完夫

リタイアを機に、誘われていた「くらりか」に加入したのが2007年であった。「理科好きの子どもをふやそう」と、東京都と神奈川県で小中学生向けにOBが集まり始めた理科教室である。理科教室に出てみると、子ども達が意外なほど熱心に工作や実験をする姿が印象に残り、指導するリタイアしたOBの方々も子ども達とのふれ合いを心から楽しんでいた。驚いたことに90歳を越えた方が子ども達に話しかけ動き回る姿に、意欲と健康でさえあれば、いつまでも続けられるボランティア活動と知った。

私の住む春日部市でも理科教室を開催したいと会場を探し続け、児童センターで毎月、理科教室を開催できることになった。その後理科教室が増えてきて、開催の度に遠方から春日部市までくらりか会員に来てもらう方式に限界を感じて、埼玉学習センターの在校生2名、地元の有志3名の5名で「わくわく科学クラブ」を立ち上げた。活動の資金はJSTの助成制度を活用したが、2011年度末で助成制度が廃止され、教材を販売するなど資金獲得に努めたが、さほど収入を得られず資金不足に苦しんだ。その後国立青少年教育振興機構の助成を受けられることになり、今日まで理科教室を続けることができた。クラブの発足から7年が経ち、会員は10名(男性7名、女性3名)となり、年間の教室は50回、参加児童は1000名を越えた。この間に、理科教室が縁でノーベル賞の白川英樹先生に2度、春日部市で講演頂くなどいくつもイベントを体験した。

理科教室では子どもたちと工作したオモチャを手作りして遊ぶ。オモチャは自然の法則に従って動く。それぞれの法則を実験をすることで自然への関心を高め、「自然のふしぎ」を記憶に留めてほしい、これがこの教室の狙いでもある。さらにオモチャの仕組みや法則を理解して、工夫を加えて遊んでもらえば言うことなしである。工作するオモチャはポンポン水蒸気船、シャボン玉など昔の子ども遊びから、浮沈子やスライムなど初めて見る

ものなどいろいろある。いずれのオモチャも短時間で工作を完成させ、夢中で遊ぶ、容易に仕組みを理解できるものを集めており、いわば「ローテク玩具」ばかりである。材料は牛乳パックやペットボトルなど、子どもたちの身近にあるか、安価に入手できるものである。工作したオモチャを家に持ち帰り、遊んで壊したら修理をしたり、作り直したり、工夫することもできる。教室に参加した子どもから、教室で作ったオモチャで帰宅後も遊んだ様子を聞くことがあり、活動の手ごたえにうれしくなる。

教室の終了後の反省会では、次々と課題がでてくる。改良の日は続くが、会員相互の懇親の場にもなり、改良を話し合い検討するのも楽しい。初期の頃の課題にパワーポイントを親しみ易いものにするがあった。当時のPPTには講師のメモを兼ねた説明を載せたが、小学生には読むのがつらい。そこでタイトルなど最小限の文字を残し、説明文を絵に変え紙芝居化した。次に長いスライドを整理し説明の時間を短縮し、ゆとりを持たせた。また、無意識に使用する原子、偶力などの科学用語は小学生には難解なものばかりである。これは子どもたちに分るレベルの説明後に使用することにした。また、普段使っている接続、計測、観察などのいわゆる「漢字2文字」の名詞の意味は小学生の低学年生には分らないことが多いため、「話し言葉」を使用するように努めることにした。これまでの取り組みを列挙すると会員の力で授業の改良の跡をたどることができ、これからも楽しく分かりやすい授業をすることで、「理科好きの子どもをふやそう」との目的に向けて活動を続けたいと改めて考えている。

銀色の日々

権力の館を訪ねて

大西 亮

「権力の館を考える」を学んだこの半年間で、西園寺公望の坐漁荘、鳩山一郎の音羽御殿、そして岸信介の東山旧岸邸の3か所を見学した。

「館」とは字引によると、「身分の高い人の邸宅」とある。今回の場合、政治活動に携わった政治指導者の活動拠点と解釈した。館を見れば、その人の心構えが解る。また、権力者は孤独な場合が多いと思われ、主の気持ちや推測することもできる。以上の3人がその邸宅を生活の場としながら、夫々が異なった形で利用したことは、大変興味深い。

西園寺は東京と距離をへだてた静岡県興津町という閑静な場所を選び、太平洋を眺め、思索と自らの趣味生活を楽しみながら、元老としての役割を果たそうとした。また、興津町から比較的近い薩垂峠からは、富士山の絶景を堪能することもできた。西園寺の全盛期には、政治家はもとより各界の著名人が次々に坐漁荘を訪ね、貴重な情報交換を行った。

しかし、大正の末期以降になると、軍部や右翼の台頭による暗殺やテロが相次ぎ、満洲事変や支那事変などが次々に起こって激動の時代となった。

西園寺の目指す、米英などとの国際協調主義による政治を十分に果たすことができなかった。鳩山は第2次大戦後、GHQから公職追放の処分を受けるが、追放の解除後、政界への復帰、保守合同、首相の座について日露国交回復、国連への加盟と政治活動を展開する。その活動の場として、この館を利用した。

岸は昭和35年、日米安保条約の改定後、不本意な引退をしてから約10年後に御殿場に居をかまえた。戦前は満洲の開拓、戦中は東条内閣の商工大臣、東条との意見の相異戦後は戦犯として巣鴨刑務所に収監され、戦後、その後政界に復帰して保守合同、後には首相にまで駆け上った。首相辞任後も、再び機会があれば首相にカムバックがあった。

したいとの執念が邸宅の建設に現われている。その他、吉田茂の大磯邸は不幸にして焼失したが、今に残っているれば興味ある館であったであろう。その後、池田、田中、三木、中曾根と本宅や別荘が権力の館として利用されたが、公開されていない。国家国民に尽くすことを使命とした政治家の館で、公開されている事例は比較的少ない。また、政治指導者が死亡した後、遺族や関係者の考慮の方によつては、当時の政治的な功績とは関係ない形で利用されている事例が見られる。

以上、「権力の館」を学ぶことにより、時代とその政治家の功罪や現近史に代史について学習の幅を広げられたことは収穫であった。

俳句(つみ草)

- 街灯の笠のくすみや冬日影
御降の絹の音して上がりけり
嫁の座も古りて角なるごまめかな
三代の席定まりて小殿原
田作の反りたる海の匂いかな
田作や着物姿の三姉妹
虹色の光孕める小殿原
田作や話終えたる老農夫
逆光の灰色の闇冬の鹿
冬ざれや工事現場の槌の音
(見学歓迎 第2木曜日 午後 9階第5講義室)

2/3月のサロン

- ◎サロンはんもと 日時 2月12日(日) 14時~16時半 場所 8階講義室A
◎サロンながさわ 日時 2月26日(日) 14時半~17時 場所 8階講義室A
◎サロンしづや「クラシック音楽の魅力」 日時 2月16日(木) 14時~16時 場所 第1講義室
◎2月16日(木)
◎3月16日(木)

サークル案内

- サークル おおみや 2月24日(金) 13時~15時 新年度活動計画案策定
3月24日(金) 13時~15時 総会 新年度の役員体制、活動計画等の審議
江戸時代の古文書を読む会 2月5日(日)、12日(日)
3月24日(金)・25日(土) 栃木県立文書館へ研修旅行
放送大学熟年会 2月14日(火) 定例会&勉強会
勉強会テーマ「ジェネラティブティ(世代継承性)の新しい測定法」高齢期の幸福について

朗読の会「はいろ」

- 2月2日(木)・17日(金)・24日(金) 第1講義室・10時~17時
編集後記 大雪の便りが次々と届いていきます。寒さと闘い、試験勉強に取り組む学生諸氏の健闘を祈ります。今年もよろしくお願いたします。(冬)